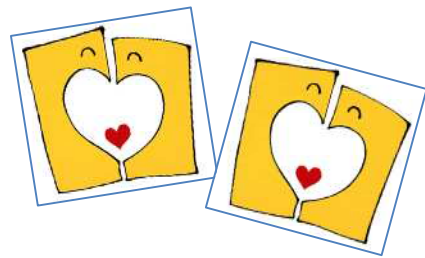


道徳通信

中島中学校 2学年道徳通信 No.2 R7.5.22



教材名『バスと赤ちゃん』

(思いやり)

【あらすじ】

赤ちゃんを連れてバスに乗っていた母親。満員の車内で泣き出した赤ちゃんが他の乗客に迷惑をかけると感じ、途中下車しようとする。それに気付いたバスの運転手が母親に声をかけ、乗客に呼びかける話である。

【ねらい】

満員のバスの中で泣き叫ぶ赤ちゃんを取り巻く「お母さん」「バスの運転手」「乗客」のそれぞれの立場で相手を思いやる気持ちを考える活動を通して、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるようにする。



人を思いやるときに大切なことは、何だろう。

【授業の感想】

- これから、人を思いやる行動をとるときは、人にとってこれが本当に「うれしいか」ということを考えたい。
- 相手がどう思うか分からないけど、自分的には運転手さんみたいに、思いやりの行動をしていて、これからもしたいと思った。
- 運転手さんは自分の行動が思いやりだと思って行動していると思う。でも人によっては、ありがた迷惑なこともある。だから、これからは、相手のこともそうだし、その後のことも考えて行動すればよいと思った。
- 思いやりとは、相手の立場を考えて行動したり発言したりすることだと新しく分かりました。これからは、すぐに助けるのではなく、少し考えてから行動しようと思いました。
- 自分が思う思いやりではなく、本当に相手の気持ちになって考えた思いやりの行動をしようと思った。



道徳の授業では、座席を「コ」の字型にして話し合いを進めています。



話し合いの場面で登場するぬいぐるみ。
(名前募集中!)

ご家庭でも「思いやり」について話し合ってみてください。